

かかりつけ医のような身近な相談相手

柏崎きぼう法律事務所



弁護士 田才淳一氏
柏崎市東本町1-16-33
北野屋スポーツ2階
Tel.47-7510

時、柏崎市は町の規模に対して弁護士が非常に少なく、柏崎で弁護士が求められていると強く感じたそうです。そして縁あって、柏崎きぼう法律事務所が活動するのになりました。

取材中、田才さんは『マチベン』という言葉を使っていました。これは、体調がすぐれないときにまず診てもらおう町医者のような弁護士のことです。都会には、百人単位で弁護士が所属している大規模な法律事務所や、専門分野に特化した法律事務所があるそうですが、この地域柏崎で『マチベン』として幅広く相談を受け付けて困っている人の力になる身近な相談相手でありたいとのことでした。

在、事業承継について問題を抱えている中小企業が非常に多いです。個人の単純な相続と異なり、事業をどのように引き継いでいくかが課題であり、問題解決に向けた弁護士に対する期待に添えていきたいです」と語ってくれました。

今まで法律事務所は敷居が高くて、裁判沙汰にでもならない限りは、相談になんか行けない感じがしていました。でも違ったんですね。裁判沙汰にはならなくても、何か悩みごとや困りごとがあったら一人で悩むのではなくて、まずはなるべく早めに相談すること。そしてアドバイスをもらいながら最善の選択をしていくこと。これが問題解決のためには、とても大切であることを今回の取材で学ぶことができました。

(十人衆(忠)・(黒)取材)

田才さんは、昭和五十二年生まれで現在四十二歳です。新潟市出身で小学二年生の時に東京へ引っ越ししました。高校時代には山岳部に所属していて、インターハイの出場経験があります。中央大学の法学部在学中に困っている人を助ける弁護士に強い関心を持つようになり、大学卒業後に法科大学院へ進学。司法試験合格後は新潟市の法律事務所まで弁護士として経験を積みました。その当

「どうにもならなくなつてからでは、弁護士としても打てる手が限られてしまします。トラブルの芽が小さいうちに、なるべく早く相談してほしい。同じトラブルでも早めに相談をしてもらえらることで打てる手もあります」という言葉が印象的でした。



これから力を入れて取り組みたい点をお聞きすると「現